剣道だより

No. 166

11・12月号

三木市剣道連盟
広　報　部
2013（平成25）年
12月29日（日）
発　　行

○第６０回県優勝大会（1･2面）
○第60回兵庫県高等学校新人剣道大会(2･3面)
○第27回三木市少年スポーツ大会（剣道の部）兼第34回三木市民剣道大会（4･5面）
○防具担いで「交剣知愛」（6面）
○安栖敏男先生を悼む（7・8・9・10面）○月々の便り（１０面）

◎本紙は、紫雲館剣道場ホームページ（www.eonet.ne.jp/~tkomu/siunkan/index.htm）にも掲載中。PDF形式で印刷できます。今後郵送不要の節はご連絡ください。

三木剣連チーム仲良く一勝
―第60回兵庫県剣道優勝大会―

年最後のビッグイベント、「第60回兵庫県剣道優勝大会（一般の部）兼第67回兵庫県民体育大会（剣道競技）は、11月23日（祝・土）に神戸市立王子スポーツセンターで行われた。

我が三木市剣道連盟は、ここ数年守っている二チームを、苦しい台所ながら何とか出場させた。

選手層が薄い中、人集めにはかなり苦労したようだ。自らも事業を行って超多忙の松本克基、小林隆仁氏らの懸命の選手確保で何とか二チームができた。

全参加チームは、101。去年より2～3チーム多いという。

3カ年ベスト16に進出している三木市チームは当然マークの対象になる。果たして三木市Aは、第一回戦対西宮中央Aの後、早くも県警機動隊とぶっつけられている。去年何とか競り勝った相手だ。選手層も若く、元気な盛りのチームで、当然昨年のことは記憶に新しいだろうし、雪辱に燃えているはずである。一方三木市Bは、「高砂剣連」と、甲南大学剣道部OBたちの会「甲南縦之会」の勝者と第二回戦を戦う。

大会は開会式に先立って、表彰式があり、「全剣連剣道有功賞」「全剣連少年剣道教育奨励賞」「（一財）兵庫県剣道連盟年度表彰」などがあり、全国大会で優勝・準優勝・三位に入賞した個人・団体が次々と表彰された。

その中で、全日本剣道連盟少年剣道教育奨励賞が伝達され、我が三木市から「三木市口吉川少年剣道教室」が他の11団体と共に表彰伝達を受けた。

全剣連少年剣道教育奨励賞を受賞した口吉川少年剣道教室

先陣切った西本の気迫

試合は六つの試合場で一斉に始まったが、第四試合場で第二試合の三木市Aは、試合の準備そこそこに「西宮中央」と対戦した。

いざ西本以下決意を秘めて難敵県警機動隊に挑む三木市Aチーム

	先	次	中	副	大	勝	本
西宮中央	池田	長浦	北島	那須	勝丸	0	0
	△						
三木A	㊀	㊋コ	㊋コ			3	5
	西本	高尾	松本	木村	上田		

先鋒西本英一郎は使命感に燃え、気迫で相手を圧倒、出小手一本の勝ち。続く高尾英生、冷静な試合運びで相メンに乗り、続いてコテも奪って二本勝ち。中堅松本克基、相手メンに来るところを応じてメン、さらに相手を引き出してのコテでこれも貫禄の二本勝ち。副将木村文教、大将上田和紀の相手はいずれもベテランだったが両者引き分けた結果、3―0で三木市Aの勝ち。

続く二回戦の相手は、昨年接戦をものにした「県警機動隊」チーム。それだけにリベンジに燃えている。先鋒西本こそメンの一本勝ちで勝利したが、次鋒高尾、中堅松本は引き分け。副将木村がコ、メンの二本負けを喫し逆転される。絶体絶命の大将

	先	次	中	副	大	勝	本
警察機動隊	井上	田尾	畑	小川	加藤	1	2
				㊀メ			
三木A	㊋					1	1
	西本	高尾	松本	木村	上田		

戦、上田何とか打開しようとするも、もはや逃げ切りの体制に入った相手大将加藤は、無理に勝負しようとせず、そのまま時間切れに。1対1の本数負けで、Aチーム無念の敗退だった。

大将の責任果たした小林隆仁の根性

一方三木市Bは、「高砂剣連」を降し、二回戦に進出した「甲南縦之会」相手に一歩も引かなかった。先鋒粟田良之助を始め、51歳の次鋒中谷忠資、若手の中堅藤田圭吾、副将木村一徳、大将小林隆仁にいたるまで一本も決まらず、すべて引き分けという互角の戦い。

甲南縦之会と対戦する小林隆仁主将以下三木市Bチーム

やむを得ず代表戦となり、キャプテンで大将の小林が出場。相手副将の和田洋之五段（34歳）をメンで降し、チームを勝利に導いた。続く三回戦は実力を誇る「グローリー株式会社本社」チーム。皆バリバリの若手である。このチームとの差は補いようもなく、先鋒から副将までき っちりと打ちとられ、大将戦で小林隆仁が必殺の突きで一矢報い、引き分けとしたが、4—0で完敗した。

今年は両チームともそれなりに健闘したが、三年間守ったベスト16の線は確保できなかった。

後の反省会で松本克基総監督は語る。「西本英一郎にみられるような自覚ある若手を育てなければならない。選手の自覚ある稽古の積み重ねがないと、三木剣連の未来はない。」と。

この大会には車の手配、弁当の買い出し等、蔭で選手を支える者が居た。毎年沢山のお茶を差し入れてくれる近藤隆宣事務局長もその一人だ。（報告　高橋洋三）

本	勝	代	大	副	中	次	先	
0	0	和田	入江	和田	西島	盛山	寺前	甲南縦之会
0	0	㊋						三木B

本	勝	大	副	中	次	先	
8	4	赤松	星野	山脇	国重	松本	グローリー本社
1	0	㊋ ツ 小林	㊐ ド 木村	㊋ メ 藤田	㊋ メ 中谷	㊐ コ 粟田	三木B

杉正香菜　殊勲の5位入賞

第60回兵庫県高等学校新人剣道大会女子個人の部

平成25年11月9日(土)・10日(日)の両日、高砂市総合体育館で行われた「第60回兵庫県高等学校新人剣道大会・第24回高砂市長杯争奪高等学校剣道大会」は、9日が男子団体・女子個人、10日が女子団体・男子個人の日程で熱戦が繰り広げられた。

○ 9日の試合

各地区予選を勝ち抜いた精鋭は、いずれも稽古十分、経験豊かな各校自慢の選手揃い。緒戦から実力伯仲で、どちらが勝ってもおかしくない勝負が続いていた。

東播地区選抜の16名のうち、三木からは唯一、三木東高の杉正香菜が出場していた。その杉正、1回戦山崎高の塚本千尋、2回戦豊岡高の山本未央、3回戦川西北陵高の平野貴子、4回戦須磨の浦の芳井咲来を次々と降し、ついに5回戦（ベスト8）に進出した。しかし、ここで待ち受けていたのは、甲子園学園の住野早希だった。

ベスト8に入った三木東高　杉正選手（右）、相手は1回戦の山崎高　塚本選手

杉正粘りに粘ったが、見事なメンを武器とする住野に屈し、ベスト4進出は成らなかった。

住野はその後ベスト4に残った須磨学園の3名と優勝を争い、それらを次々降して見事優勝した。

大会2連覇を果たした実力者住野に対して一歩も引かず善戦した杉正の健闘は大いに称えられる。ちなみに三木勢が県大会の団体・個人でベスト8に進出したのは、ずっと昔、三木東高の先輩（男子個人）以来のことで、快挙といえよう。

男子の団体は、三木高チームのみ。1回戦、滝川高に2—1で辛うじて勝ち、2回戦に進んだが、雲雀が丘学園（阪神3位）に善戦及ばす3—1で逆転負けした。

○ 10日の試合

翌10日は、男子個人と女子の団体戦だった。

対滝川戦を前に面を付ける三木高チーム

男子個人戦には、三木高の松下勇輝、三木北高の橋間祐生が出場したが、いずれも1回戦負け。

対滝川戦に健闘した三木高、寺尾選手(左)

東播ではそこそこ勝てた二人だが、各地区選抜の精鋭との対戦では、まだまだ力が足りなかった。

女子団体も三木東高チームのみ。昨年は3名での出場だったが、今年は5名揃って出場した。しかし、残念ながら緒戦で但馬2位の生野高と対戦し、0―3で敗退した。

○今回の大会、武中先生の談話

「今年度、高体連主催の大きな大会はこれが最後となりました。今回の大会の目標は昨年以上の結果を残すことでしたが、三木東の杉正が見事に念願のベスト8を達成してくれました。近年、三木市内の高校では男女団体、個人を含め県大会でベスト16まではあるものの、ベスト8はありませんでした。（過去にはある）これを励みに三木市内の高校が切磋琢磨し、東播大会、県大会で上位進出の常連になってくれればと思います。

恒例となりました、春の合同合宿（三木・三木東・三木北・小野工・社・三田翔雲館・和田山）を今年度は3月27日（木）～29日（土）で計画しております。詳しい日程、内容が確定すれば改めて連絡させていただきますので、三木剣連の先生方のご協力をお願いいたします。」

杉正選手にインタビュー

当日、足の具合は？

杉正　1ケ月前の東播大会で左ひざの半月板を損傷し、県大会当日になってもひざの痛みは、まだ続いていた。そのため試合にはテーピングをして臨んだ。初戦は緊張もあり、痛みをあまり感じることはなく、今までと同じような動きで戦えていたが、試合を重ねるにつれて、痛みは徐々に増していった。足が重く、思うように動かなくなり、相手に飛び込んでいくことができなくなっていった。連続する延長戦で体力も消耗し、立っているのが精一杯という中で相手の仕掛けを誘い、その出端で一本を取れるチャンスを狙っていた。

5回戦、甲子園学院の住野選手との一戦は？

杉正　甲子園学院の住野さんは同学年でありながらすごく強くてあこがれの選手である。住野さんと試合で対戦できるとは思ってもいなかったのですごく貴重な体験が出来てとてもうれしかった。それと同時にとても緊張した。住野さんはいろいろな技を持ち、打ちも強くて速いので、相手よりも先に打つことを意識して試合に臨んだ。しかし意識と反して、体が思うように動かず、後に下がってしまう剣道になってしまった。相手が面を打ってくるのに合わせて合い面を打ったところ相手に一本を取られてしまった。その数秒後に試合終了の合図が鳴り、一本負けという結果になった。

今大会に向けての稽古の工夫や本人の努力は？

杉正　東播大会で左ひざを負傷し、ドクターストップがかかり、県大会間近まで、剣道の稽古、試合に参加することが出来なかった。けれどその間に見取り稽古という形でいつもと違った視点で剣道を見つめなおすことができた。そしてリハビリの先生から足、体幹の筋力トレーニング方法を教わり、部活に取り入れたり、トレーニングルームに通った。剣道の稽古が出来ない焦りはあったが、今自分に出来ることは何かを考え、それを一生懸命にやるしかないと思った。本格的に稽古を始めたのは、試合の一週間前ぐらいから。試合に間に合わせられるように試合練習では、あまり足を使わずに戦うにはどうおしたらいいかを自分なりに考えた結果、足がダメなら竹刀でプレッシャーをかけられるようにし、一瞬のチャンスを自分のものにできるようにと取り組んだ。また自分の得意とする技を今まで以上に完成度を高くするように心がけて稽古をした。

試合に向けてチームメイトや監督にどのような言葉をかけてもらったのか？

杉正　チームメイトや友達からは がんばって！！！」応援している！！」の言葉をかけられた。ありふれた言葉だが、あの時の私は足の調子が今ひとつで、稽古不足もあり、今までに感じたことのない程の試合に対する怖さや不安でいっぱいだった。そんな精神的に弱っている私にはとても心に響く言葉だった。また先生からは数試合を終えて 最後まで諦めずに頑張れ。」と声をかけられた。足も体力も限界に近く もうこれまでかな。」もうだめかもしれない。」と試合放棄をするような弱い気持ちになっている時にかけられた言葉だった。私の弱さを見抜かれたようでとても恥ずかしかった。しかしこの言葉で切り替えることができ、今までやってきたことを出そうと前向きに最後まで試合を行うことができた。

三木東高等学校　剣道部顧問
（八木　啓介）